

決算特別委員会委員会調査報告書

令和5年10月16日（月）に、県立産業技術短期大学校西キャンパス及び県立図書館新棟において、「認第2号 令和4年度神奈川県一般会計歳入歳出決算及び同年度神奈川県特別会計歳入歳出決算の認定について」調査したところ、その概要は別紙のとおりでした。

神奈川県議会議長 加藤元弥様

決算特別委員会委員長 田中徳一郎

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 県立産業技術短期大学校西キャンパス及び県立図書館新棟
- (2) 出席委員 田中徳一郎委員長、谷口かずふみ、川崎修平の両副委員長、田中洋次郎、難波達哉、永田てるじ、山口美津夫、芥川薫、市川和広、高橋延幸、高橋栄一郎、あらい絹世、河本文雄、嶋村ただし、杉山信雄、杉本透、持田文男、望月聖子、市川さとし、米村和彦、青山圭一、石川裕憲、岸部都、近藤大輔、平野みぎわ、すとう天信、古賀照基、おだ幸子、小野寺慎一郎、阿部将太郎、さとう知一、井坂新哉、北井宏昭、松長泰幸の各委員
- (3) 随行者 矢澤主任主事、臼井主任主事（議会局議事課）、鈴木グループリーダー（会計局会計課）、熊谷副主幹（企業局財務課）
- (4) 調査日 令和5年10月16日（月）
- (5) 行程 県庁 → 県立産業技術短期大学校西キャンパス → 県立図書館新棟 → 県庁

2 県立産業技術短期大学校西キャンパス

(1) 調査目的

県立産業技術短期大学校西キャンパスは、訓練実習棟及び共同訓練棟として使用していたが、建築から50年近くが経過し老朽化が著しかったことから、神奈川県立産業技術短期大学校西キャンパス再整備事業として、令和2年10月に設計施工一括方式により新築建て替え工事を開始し、令和4年12月に建物が完成した。

そこで、県立産業技術短期大学西キャンパスを調査することで、認第2号 令和4年度神奈川県一般会計歳入歳出決算及び同年度神奈川県特別会計歳入歳出決算の認定についての審査の参考に資するものとする。

(2) 当局出席者

川島剛産業労働局長、西海裕之労働部長、今井千晴経理担当課長、田巻愛産業人材課長、松永和彦産業技術短期大学校長、鈴木学副校長
鈴木真由美会計管理者兼会計局長、高山明彦同副局長兼会計課長

(3) 委員長挨拶

(4) 会計管理者挨拶

(5) 産業労働局長挨拶

(6) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 県立産業技術短期大学校西キャンパス再整備事業の概況について

イ 工事の概要について

(ア)構造及び規模等について

(イ)建設費について

ウ 学校の概要について

(ア)沿革等について

(イ)事業及び施設について

(ウ)魅力と特色等について

(エ)西キャンパスの概要について

(7) 質疑応答

質 疑 平成22年以後の統計では、情報技術科を除いて入学者数が減っている。建築現場などでは外国人が増えているが、日本人以外の生徒に呼びかけをしているかお伺いしたい。

応 答 建築系の学科は、本短期大学校にはない。留学生は四つの学科で10名受け入れている。

質 疑 委託費の関係で、資料を見ると、令和2年度から4年度で年々増額している。どういった計画で、このようになっているのかお伺いしたい。

応 答 設計施工一括方式を採用しており、例えば令和2年度は設計費、3年度は設計費と建設費などの費目で、設計したり、施工したりという段階に応じて、支出をしていくので、このような形になっている。

質 疑 もともと3年の計画で、この年は設計費などとして最終的にこれだけという考え方でよろしいのか。

応 答 お見込みのとおりである。

質 疑 就職状況が%で書かれているが、どれくらいの人数が就職しているのか。また、中途退学者はどれくらいいるのか。

応 答 卒業生の中で百二、三十名が就職している。途中で退学される方は、年間十数人いる。

質 疑 留学生の出席率が低いという話も聞くが、この学校においてはどのような状況か。

応 答 家計が苦しいなど様々な状況はあるが、来なくなるということはほとんどない。

質 疑 どこの国の留学生が多いか。

応 答 中国やベトナム、東南アジア系の学生が多い。

質 疑 資料を見ると、入学者が定員の半分の科もある。入学者を増やしていく取組は行っているのか。また、応募者が少ないことが長期的に続くのであれば、学科別に入学定員を変えることなども考えられるがどうか。

応 答 人気のある学科とそうでない学科がある。各高校を回るなど工夫はしてい

るが、なかなか4年制大学への進学も増えていることから厳しい状況である。定員については、各学科の定数も見直さなければいけない時期ではあるかと考えているが、それがうまくいくかは、これからの検討課題なので、その辺りは詰めていきたいと思っている。

(8) 施設内視察



(9) 調査結果

- 県立産業技術短期大学校は、神奈川県先進的産業界を支える課題解決型の実践技術者を養成し、県立産業技術短期大学校の職業能力開発の重要な施設として、産業界に貢献することを目的とし、平成7年4月に、厚生労働大臣の認可を受けて県立の職業能力開発短期大学校として開校されたとのことであった。
- 同校西キャンパスは、訓練実習棟及び共同訓練棟として使用していたが、建築から50年以上経過し、老朽化による雨漏りや電気設備等の不具合が生じるとともに、耐震診断の結果、耐震性不足が判明したことから、神奈川県立産業技術短期大学校西キャンパス再整備事業として、令和2年度から令和4年度にかけて、設計施工一括方式により新築建替工事を開始し、令和4年12月に建物が完成したとのことであった。
- 同校西キャンパスは、建築面積2,719.58㎡、延床面積3,327.89㎡の施設で、ZEB（年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロ又はマイナスの建物）を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建物であるZEB Readyを実現した県の施設として、初の建物であるとのことであった。
- 建設費総額は、令和2年度から4年度の3年間で予算額、決算額同額の12億5,400万円で、その支出内訳は全額委託料とのことであった。神奈川県立産業技術短期大学校西キャンパス再整備事業委託として、令和2年10月13日から令和4年12月10日までを委託期間としており、令和4年度支出額は10億1,540万余円とのことであった。
- 同校西キャンパスは、事業主等が行う職業訓練及び技能検定の実施など、建築関係を中心とするものづくり分野の人材を育成することに活用されているとのことで、具

体的には、技能検定実技試験で神奈川県職業能力開発協会と協力協定を締結している団体が西キャンパスを利用したり、認定訓練を実施する横浜建築高等職業訓練校などの4団体に西キャンパスの使用を許可し、職業訓練等への支援を行っているとのことであった。

- これら同校西キャンパスの整備の状況を現地調査し、ZEB Readyを実現した建物の状況、整備後の施設を活用した取組等を確認することができ、決算特別委員会における議案審査の参考に資するものとなった。

3 県立図書館新棟

(1) 調査目的

県立図書館新棟は、「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」（平成28年10月策定）に基づき、施設の老朽化や収蔵スペースの狭隘化、利用者数の減少等の課題に対応するため、「価値を創造する図書館」として、令和2年10月に図書館新棟（本館）新築工事に着手し、令和4年9月に一般利用が開始されている。

そこで、県立図書館新棟を調査することで、認第2号 令和4年度神奈川県一般会計歳入歳出決算及び同年度神奈川県特別会計歳入歳出決算の認定についての審査の参考に資するものとする。

(2) 当局出席者

落合嘉朗教育局長、吉田美和子生涯学習部長、山下芳彦財務課長、信太雄一郎生涯学習課長、江藤政克県立図書館長、森由紀裕副館長、森谷芳浩企画サービス部長、柿澤淳子資料部長兼情報整備課長

岬真一営繕計画課長、萩原教貴住宅営繕事務所営繕設備部長

鈴木真由美会計管理者兼会計局長、高山明彦同副局長兼会計課長

(3) 委員長挨拶

(4) 教育局長挨拶

(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 概況について

イ 工事の概要について

(ア) 構造及び規模等について

(イ) 建設費について

ウ 施設について

エ 催しについて

(6) 質疑応答

質 疑 電子書籍なども増えてきているが、図書館の利用率、年代別のデータなどもあれば併せてお伺いしたい。また、午前中は産業技術短期大学校西キャンパスを視察してきたが、環境に配慮した設計とのことだった。この図書館はどうか。

応 答 開館以降、利用者アンケートを取っているが、以前は60代以降の利用者が多かったが、30代以下の利用者が増えてきており、新しい世代の利用が進んできていると感じている。特に土日では、開館前から並んでいる方が多く、学生の方が勉強している姿を非常に多く目にする。また、環境に配慮した設計については、太陽光が直接本に当たらないように角度計算をして、自然光を取り入れながら本の閲覧ができるような工夫をしている。

質 疑 近くの方は非常に利用しやすく、いい施設だと思うが、土日などは遠くからの来館者などもいるのか。また、開館時間が、平日は午前9時から午後7時まで、土日祝は午前9時から午後5時までとなっているが、もう少し長くしていただけると利用者は増えると思うが、そのようなお考えはあるか。

応 答 遠くの方の利用について把握はしていないが、土日は利用者が増えるので遠くの方の利用も多いのではないかと思う。また、県内の公共図書館同士で相互貸借できる体制があり、市町村の窓口を通じて、資料の貸し借りも行っているため、わざわざ来なくても借りられる状況にはある。開館時間については、利用状況を見ながら、今後検討していきたいと思っている。

質 疑 図書館は、海外の方が旅行の目的地として選ぶということもありうる魅力のある文化施設として、人気があると思っている。日本の文化に深く関心を持たれている海外の方に対して、目的地にするような取組や、海外への情報発信など取り組んでいけば、お伺いしたい。

応 答 再整備を進めている前川國男館、収蔵館は、魅せる図書館として魅力あふれる図書館に向けて整備しているところである。注目度としては全国、海外とまでは至らないかもしれないが、県の重要文化財に指定されている建物ということで、きちんと魅力を発信していき、県立図書館が神奈川県だけではなく、日本全国からみても非常に評価が高く参考になるような取組を進めていきたいと思っている。

(7) 施設内視察



(8) 調査結果

- 県立図書館新棟は、平成28年10月に策定された「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」に基づき「専門的図書館」、「広域的図書館」としての機能を持ちながら、新たに「価値を創造する図書館」として整備されたとのことであった。
- 建設費総額は令和2年度から令和4年度までの3年間で、予算額21億8,500万円、決算額21億8,031万余円、建設費の内訳は委託料6,006万円、工事請負費21億2,025万余円とのことであった。
- 新築された新棟は、次のような特徴の施設であるとのことであった。
 - ・ 1階には、閲覧スペース、本の企画展示を行うギャラリーを配置し、ライブラリーショップでは飲物、軽食、文具などを販売している。また、その隣に配置されているリフレッシュエリアでは飲食が可能となっている。
 - ・ 2階には、通常の閲覧スペースのほか静寂読書室として、利用を読書に特化した閲覧スペースを設けている。
 - ・ 3階には、オープンテラスやザ・リーディングラウンジを設けている。ザ・リーディングラウンジでは、ゆったりとした家具や雰囲気の中で読書を楽しむことができる。
 - ・ 4階には、利用者同士が交流できる、学び⇄交流エリアやディスカッションルームを設けている。また、研究ブースでの研究などで利用することができる研究個室も設けている。
- 同館では、同じ興味を持つ仲間と共に、専門家の知見を生かしながら、交流を通じて知識を広げていくという取組であるLib活という新たな取組を実施しているとのことであった。このLib活は、「after 5ゼミ」、「県民が編むかながわの半世紀」、「本を選び、本を読み、本を朗読する講座」の3本で構成されており、年間を通して計画的な講座等を開催しているとのことであった。そのほか、大人がはじめる学び方

講座や、大学で学ぼう～生涯学習フェア～、企画展示など様々な取組を行っているとのことであった。

- これら同館新棟の整備の状況を現地調査することにより、利用者の世代の幅が広がっている状況、整備後の施設を活用した取組等を確認することができ、決算特別委員会における議案審査の参考に資するものとなった。